

公益信託世田谷まちづくりファンド

第29回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【4回目応募グループ】

< 5-1 認定NPO法人ホームケアエキスパーツ協会 コミュニティ音楽療法グループ >

- ・新型コロナウイルス禍における精力的な活動に頭が下がります。4年目で安定的な活動に入ってきたと思いますので、素晴らしい活動が地域社会にしっかりと定着できるよう、利用者との持続的な関係づくり、協力団体との持続的な関係づくり、行政機関との持続的な関係づくりにも意識的に注力していただければと考えます。

< 5-2 緑友会 >

- ・平成2年から30年にわたり、みどりゆたかなまちづくりをつづけられ、高齢者の活動の場としても素敵で機能していると思います。会員拡大の取り組みも始められているようですが、活動を継続していくためには財源の確保も重要です。他の団体での事例なども参考にしながら、ぜひ、継続できる仕組みづくりに取り組んでみてください。

< 5-3 一般社団法人東京ヒューマンライブラリー協会 >

- ・らくらくハウスという拠点ができ、更に活動が広がりそうですね。常設の「対話カフェ・にんげん図書館」の開設など、日本初の取り組みも楽しみです。
活動の広がりとともに、ボランティアスタッフの役割も大きくなると思います。素敵な人材をたくさん育てて、息の長い活動にしてください。

< 5-4 音楽療法せたがやくらぶ >

- ・コロナ禍でも慎重に検討を重ねて、何とか活動を止めないようにご苦労されてきたことが伝わりました。まちづくりファンドと関わりのあったこの3年間で、他の団体との活動コラボに取り組みられるなど、地道な活

動にプラスした展開の報告を毎年楽しみに聞いていました。今後も障がい児童や未就学児への活動の展開も模索されるとのことで、ますますの展開を楽しみにしています。

< 5 - 5 一般社団法人グリーフサポートせたがや >

- ・表立っては見えにくいけれど、人が生きるにあたって大きな影響があるグリーフ（喪失、喪失感）と共にある方々に寄り添う取り組みですが、そうした方々にとって頼りとなる「場所」を運営・維持しながらの活動であり、人が集まることが難しくなってしまったコロナ禍にあって、大変な苦労をされてきたことと思います。今回の助成が、少しでも、グリーフと共にある方々の元気に繋がればと思います。

< 5 - 6 実家なんとかし隊 >

- ・2015年以降ニーズに合わせて諸問題を解決するための講座を継続して行ってきた実績を評価させていただきました。新型コロナ感染拡大で、昨年度活動を中止せざるを得なかった中で、今年度新しい生活様式に則ったリアル&オンラインの勉強会の定期開催にチャレンジすることで、孤独・孤立状態にある地域の中老年とのつながり作りが行われていくことを期待しています。

< 5 - 7 おひるのかほり >

- ・すでに実績と拠点がある団体であり、「子育て×カルチャー×下北沢」というテーマにも大きな可能性を感じました。一方で、下北沢のまちの思わぬところに新型コロナウイルスの皺寄せがきているかもしれないので、一過性のイベントで終わることなく、関係する人たちに目を配り、下北沢の文化に対する必要な支援があればどんどん声をあげていただければと思います。

< 5 - 8 市民活動団体ZUTTO-KOKO >

- ・多世代交流の場からスタートした取り組みがケアラーズカフェや認知症カフェなど福祉分野に深化しているとても興味深い取り組みであると思います。現在は、公共的な団体と協力されていますが、今後は地元の企業などとの協力関係を意識してみてはいかがでしょうか。近隣の企業の皆さんと協力関係を結ぶことができれば、活動自体の直接的な支援だけでなく、認知症などの理解の広がりにもつながるかもしれません。

< 5 - 9 小径のノエル実行委員会 >

- ・下北沢のクリスマスの風物詩とも言える程に、すっかり定着した感がありますね。ローソクの灯りでまちを照らし、人々をつなぎ安らぎの空間を作り出す演出は、とても素敵な実を結んでいるのではないかと感じました。今後は助成金から自立して、安定して開催できるよう検討して行ってください。